

へへふぶ

御利益

参

小吉 

もの思ふに
立ち舞ふべくも
あらぬ身の
袖うち振りし
心知りきや

紫式部
《源氏物語》

お告げ

○このみくじにあたる人は、神使の機嫌を損ねている。神使が何に怒り、何に苛立っているのかは、まさに神のみぞ知る。神使の機嫌が突然、悪くなる。これより上演中に神使は何かと理由をつけてはシラヌイの前から立ち去ろうとする。

へへふぶ


御利益

弐

凶 

手に結ぶ
水に宿れる
月影の
あるかなきかの
世にこそありけれ
紀貫之
《群書類》

お告げ

○このみくじにあたる人は、吉兆を逃す定めにある。まさに、天の与うるを取らざれば反つてその咎めを受く。これより上演中に演者が振る「∞D66」で初めて  が出たら、強制的に1回の振り直しをする。

へへふぶ


御利益

壹

大凶 

なべてなき
黒き炎の苦しみは
夜の思ひの
報いなるべし
源行
《聞書集》

お告げ

○このみくじにあたる人は、凶運から逃れることができぬ者なり。まさに凶運にその身をゆだねてこそ、浮かぶ瀬もあれ。これより上演中に演者が振る「∞D66」で初めて  が出たら、御利益を使っても、振り直しが必要ない。